

## 参考資料 4. 滝沢市地域コミュニティ基本条例の運用状況等の検証結果について

### 1 地域別計画について

滝沢市地域コミュニティ基本条例第8条に基づき策定された地域別計画は、「地域の課題は地域で解決する」ことを基本方針として、市民が主体となって地域づくりを進める行動計画として市民自らが作った地域づくりの根幹となる計画です。

計画期間は平成27年度から平成34年度までの8年間で、市内11の地域ごとに以下の構成で策定されています。中間年である平成30年度に、前期4年の振り返りと計画の見直しを実施しています。

(小岩井、大釜、篠木、大沢、鶴飼、姥屋敷、元村、室小路、東部、柳沢、一本木) 地域	
①計画名	幸せ地域づくり活動プラン ～サブタイトル～
②目指す地域の姿	ワンフレーズで表す地域の将来像
③地域の宝物	次世代に継承したい地域の宝物（資源）
④地域情報	地域の基本情報
⑤私たちの地域の課題	地域で幸せに暮らす上での中長期的課題 (ソフト・ハード両面の課題)
⑥幸せづくり計画	基本方針と基本方針に基づく行動計画 地域の幸福実感要素、活動モデル
⑦私たちのあゆみ	これまでの地域活動の取組みを記録

### 2 前期4年間の振り返りについて

各地域の地域別計画の取り組み状況について、共通の振り返りシートにより前期4年間の振り返りを行っています。

#### (1) 地域の課題について

地域の課題については、課題ごとに『重要度』と『難易度』を評価した上で、今後課題解決するにあたり地域が考える優先順位をランク付けしています。

##### ■地域で取り組む課題

課題	評価(○を付ける)		コメント	優先順位
1 通学路の安全の確保に努めます。	重要度	低 中 高 ○	スクールガード、学校との連携	1
	難易度	低 中 高 ○		
2 大釜駅前のにぎわいづくり事業の展開を検討します。	重要度	低 中 高 ○	青空市の実施に向けた計画、体制づくり	3
	難易度	低 中 高 ○		
3 自主防災組織と高齢者・要支援者の見守り活動の推進に努めます。	重要度	低 中 高 ○	ゆいっこの会、民生児童委員、自主防災、消防団が連携していきたい	2
	難易度	低 中 高 ○		



- ・ 場所：全 11 地域
- ・ 開催状況：述べ 20 回開催（地域づくり研修会でのワークショップを含め、各地域 3 回程度開催）
- ・ 参加者：市民 367 名、支援職員 71 名（いずれも延べ人数）



## 4 振り返りの分析

### （1）地域の課題

地域別計画の地域の課題について、地域ごとに『重要度』と『難易度』を評価し、それぞれ地域での全ての課題の平均値を指数化したものが、別紙の「地域の課題」分析結果（概要版）になります。

#### <重要度>

- ◆全体の平均と比較し、10 ポイント以上高い地域（大釜+16P）
  - 必要性の高い課題のみを吟味して計画に掲載しているものと考えられます。
- ◆全体の平均と比較し、10 ポイント以上低い地域（鵜飼-14P、姥屋敷-19P）
  - 計画にある課題が地域に共有されていない可能性があります。
  - 一部の市民の声を反映させるなど、地域共通の課題と認識されていない可能性があります。

#### <難易度>

- ◆全体の平均と比較し、10 ポイント以上高い地域（大沢+14P、室小路+11P、東部+14P）
  - 高額な費用を要する課題など、長期的に検討すべき課題が多く掲載されています。
  - 必要以上に多く掲載することで、解決が困難な課題になっている可能性があります。
- ◆全体の平均と比較し、10 ポイント以上低い地域（姥屋敷-26P）
  - 地域の市民が地域別計画を意識しなくても、幸せづくり計画に記載されている行動を自然に実施しているものと思われます。

### （2）幸せづくり計画

地域が取り組む行動計画について、実施内容の確認と3段階評価による振り返りを実施。それぞれの地域ごとの達成状況をグラフ化したものが、別紙の「幸せづくり計画」振り返り結果（概要版）になります。

#### <実施できた割合>

- ◆全体の平均と比較し、20ポイント以上高い地域（大釜+28P）
  - ほぼ全ての行動計画が実施されており、地域で共通の認識のもと、実施体制も充実されています。
- ◆全体の平均と比較し、20ポイント以上低い地域（小岩井-31P、元村-28P、室小路-25P）
  - 実施できた割合は低いが、その分「ふつう」の割合が大きく、「できなかった」割合はほぼ平均値となっています。

#### <実施できなかった割合>

平均値は13%、地域ごとでは5%~27%であり、大きな開きはありませんでした。

### (3) 分析

#### <地域の課題と幸せづくり計画の相関関係>

- 全体的に、課題の重要度が幸せづくり計画の達成度に与える影響は少なく、重要度の高さが直接地域の行動に結びつくとは言えない結果となっています。ただし、大釜のみ、重要度、幸せづくり計画の達成度とも一番高い結果となっています。
- 課題の難易度が低い地域は、幸せづくり計画の達成度が高い傾向にあります。難易度が低いことから行動につながる可能性と、行動力のある地域は課題の難易度を低く評価する傾向があることの両面の要因が考えられます。

#### <地域の規模と幸せづくり計画の相関関係>

- 人口規模の大きい地域は、幸せづくり計画の評価で「ふつう」と評価する割合が多い傾向があります。要因として、地域の一部の計画であったり、抽象的な計画になることで、明確な評価が困難になっていることが考えられます。

## 5 後期4年間の推進に向けた視点

### 【地域の取組み】

#### (1) シンプル化

振り返りで地域が苦勞していることの多くに、課題・計画の『盛りだくさん化』が挙げられます。このことにより、「課題・計画の意図が不明」、「当初の計画策定に携わった人しかわからない」という現象が発生しています。誰もが解りやすく受け入れられるシンプルな計画策定が望まれます。

#### (2) 参加者の広がり

地域づくり活動を推進する上で、参加者の固定化が課題となっています。ライフスタイルが多様化する時代に、地域行事に参加しやすい雰囲気づくり、環境整備が必要であり、ひいては担い手の問題解決にもつながるものと思われれます。

また、各種団体や企業など多くの利害関係者を巻き込むことも持続する地域づくりに有効です。

#### (3) 自分ごと化

振り返りでは、未だ『やらされている感』が多いと感じています。地域が幸せになるために、地

域が計画を作り、地域が実践する。地域のリーダーだけではなく、市民全員が自分ごととして認識していただく必要があります。

## 【行政の支援】

### (1) 見える化

計画を推進し評価する上で、『見える化』が重要になります。このことにより、地域が迷うことなく、継続した取り組みが可能になります。現在、岩手県立大学との共同研究で、「地域別計画の評価手法および評価シートの開発」を実施することとしており、この中で検討することとします。

### (2) 地域間連携

多くの地域で、同様の課題を抱えていることから、自らの地域の取り組みが他地域の課題を解決する、逆に他地域と連携することで自らの地域の課題解決につながる事が考えられます。

地域間連携については、行政の支援により情報共有し推進する必要があります。

### (3) 地域づくり支援職員

地域別計画の推進のために、地域づくり活動のお手伝いと市との橋渡し役として、総括主査級をリーダーとし、地域づくり懇談会ごとに3名の地域づくり支援職員を任命しています。

地域づくり支援職員が、担当する地域の計画を深く理解し、地域とともに地域づくりを推進することが求められ、研修会や情報交換会を実施しながら支援する体制の強化を図ります。

## 【イメージ】

